

国立大学法人愛媛大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

愛媛大学は、地域に立脚する大学として、教育、研究、社会貢献を一体的に推進し、「学生中心の大学」及び「地域にあって輝く大学」の実現を目指している。第2期中期目標期間においては、学生の人間的成長に重点をおいた教育の推進、地域の発展に貢献できる国際性を備えた人材の育成等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた「主題探究型科目」の全学生必修化、南予地域における学生のフィールド教育や社会人教育の拠点とすることを目的とした「愛媛大学宇和島エクステンション」の設置、「四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業」の実施等、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(機能強化に向けた取組状況)

ミッションの再定義を踏まえ、地域課題について多様な主体と協働して目標を達成でき、「サーバントリーダーシップ」を発揮できる人材の育成を目指す、新学部の設置に向けた検討を開始するとともに、法文学部・法文学研究科、教育学部・教育学研究科、農学部・農学研究科において、教育課程及び組織の在り方、規模等の見直しを開始している。また、クォーター制（4学期制）の導入等学事暦の変更についての検討、学長や教員の選考に関する規則等の見直しを開始している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

- ①組織の再編と戦略的企画機能の強化、②人事制度と人材育成マネジメント、
- ③卒業生等との連携強化

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学長裁量経費による研究活性化事業において、「発展共同研究」種目を新設するとともに、学内研究設備の共同利用強化を図るため「研究基盤整備」種目の総額を2.5倍の5,000万円に増額するなど、戦略的・効果的な予算配分を行っている。
- テニユア・トラック実施本部において能力開発プログラムの受講方法やシラバス等を掲載したガイドブックを作成し、学内外へ広く配布するとともに、「テニユア・トラック教員メンター」制度を立ち上げ、教員の能力開発を促進するための環境整備を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①自己収入の増加、②総人件費改革、③経費の抑制、④資産の運用管理の改善)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 事務組織であった「広報室」を専任教員を含む教職協働体制に改編しているほか、学部等のイメージカラーを設定し、ビジュアルアイデンティティ・システムマニュアル等に定めるなど、広報活動の工夫改善に向けた取組を行っている。
- 情報公開の促進として、動画共有サービス「愛媛大学チャンネル」に学生が制作したテレビ番組「ぞなもしLives」を掲載するなど、動画コンテンツを充実(対前年度比18%増の54件)したほか、大学ウェブサイトのトピックス掲載内容の充実や、記事を大幅に増加させることにより、ウェブサイトの閲覧件数が対前年度比8.2%増の年間167万件あまりとなっている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用、②安全管理・環境管理、③学術情報基盤の充実)

平成25年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 附属病院において患者の個人情報記録された外来診療録(紙カルテ)を紛失する

事例があったことから、再発防止とともに、個人情報保護に関するリスクマネジメントに対する積極的な取組が望まれる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 11 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成 24 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 論理的判断力や日本語表現能力を身に付けることを目的とした新科目「日本語リテラシー入門」について、全学部 1 年次生を対象に、対面授業と e-learning を組み合わせたブレンディッドラーニングにより実施しているほか、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた「主題探究型科目」を全学生必修にするなど、共通教育カリキュラムを全面的に改編し、実施している。
- 女性未来育成センターにおいて、理系女子学生グループ「サイエンスひめこ」の企画・運営の下、「サイエンスプリンセスプロジェクト 2013」を開催し、講演会や研究室訪問ツアー等を実施するなど、96 名の女子中高生との交流を図るとともに、高校での出張講義や大学説明会に参加するなど、理系女子を増やし理系女子が活躍しやすい社会を目指して学内外で活動を行っている。
- 紙産業の集積地である四国地域において、次世代の紙産業界を発展させる多様なシーズを生み出すための研究機能と、企業や公的機関と連携して、研究成果を紙産業界にフィードバックする社会連携機能を強化した総合的な研究拠点を形成することを目的として、「紙産業イノベーションセンター」を平成 26 年 4 月に設置することを決定し、センターで開発した新技術や先端研究の実用化を促進することとしている。
- 地域活性化等に関する連携協定を締結している宇和島市から「宇和島産業未来創造センター」の無償貸与を受け、南予地域における学生のフィールド教育や社会人教育の拠点とすることを目的として、教育施設「愛媛大学宇和島エクステンション」を設置し、地域連携ネットワークを強化している。
- 世界と協働できるグローバル人材育成プログラムの留学生について、インターンシップ受入企業や就職内定企業とネットワークを構築・継続しているほか、県内外の企業へのヒアリング調査を実施した結果、6 期修了生全員（6 名）の就職マッチングに成功している。
- 四国地区における教育、研究、地域連携の質的向上を図る「四国 5 大学連携による知のプラットフォーム形成事業」を実施し、四国地区国立大学連合アドミッションセンターを設置するとともに、教員等の配置、高大接続や入試制度に係る調査研究の実施等、新しい入試制度の設計・構築に着手している。

共同利用・共同研究拠点関係

- 地球深部ダイナミクス研究センターでは、世界最大、世界最多のマルチアンビル装置群等を生かした共同利用研究を 23 件実施したほか、センターで合成した世界最硬ヒメダイヤの応用等を生かした共同研究を 38 件実施している。

附属病院関係

(教育・研究面)

- 篤志からの御遺体により、医学の基礎をなす解剖学の知識を習得すると同時に、愛媛大学医学部の理念「患者から学び患者に還元する教育・研究・医療」に則り、「御遺体から学び患者に還元する」ことを目的として、全国初となる医学部附属手術手技研修センターを平成 25 年 12 月に設置し、医師や医学生を対象に 34 回（延べ受講者数 545 名）の研修を実施している。

(診療面)

- 入院前から退院後までの効果的・効率的な総合的患者サポートの実現を目的として、平成 25 年 11 月に総合診療サポートセンターを設置している。これにより、患者・家族やかかりつけ医との連携による“生活に戻すためのチーム医療”が実践され、患者・家族の満足度や関係機関の評価の向上、病棟等院内スタッフの意識の変革が現れており、平成 25 年度においては退院支援依頼件数が 844 件となっている。

(運営面)

- 高度医療機関としての機能を高めるとともに、財政的に安定した附属病院経営を行うため、手術室の機器更新を行うことにより、難易度の高い手術の施行が可能となったこと、外来棟の増築及び外来化学療法室を 8 床から 15 床へ増床するなどの整備により外来診療の効率が上がり、外来診療単価の増加となったことなどの経営努力により、請求ベースで対前年度比約 2 億 7,000 万円の増収となっている。